

英文をSVと表記する理由

英文は5つの型に分ければ理解できる

人間社会で不思議なことは多々あろうかと思いますが、このことはその何番目かにノミネートされてもよいでしょう。5つよりも詳細に分ける方法も昔から提示されており、それぞれ傾聴すべき点はあるのですが、やはり「5文型」という枠組みを脅かすほどにはならないようです。

本書でも5つに分けて考えていきます。その最大の理由は

分類が複雑になることを極力避ける

ということです。その5つは次のようになります。

第1文型 SV

第2文型 SVC

第3文型 SVO

第4文型 SVOO

第5文型 SVO C

(S=主語 V=動詞 O=目的語 C=補語)

上の表を縦に眺めてください。すべてに共通している要素があります。S (=主語) と V (=動詞) です。

- ①すべての英文を5つの文型に分けて説明する。
- ②そのすべてに共通する要素はSとVである。

①と②から、“英文”をSVと表記することにします。

「のみ」という枠組みの大切さ

英文法の理論を構築する主たる目的は、英語の実態を網羅的に説明したり、細かい例外的な事例を分析することではなく、

読む・聞く・書く・話すという行為を
スムーズにするための道具を作る

ことです。言葉の世界の現象はさまざまで、何らかの理論を立てても、その理論に対する例外的な現象が出てくることは避けられません。

その場合、例外規則が多すぎるとは道具としての理論の質に問題があることとなります。まず例外は切り捨て、できるだけ一般性のある理論、より一般的なことをまず押さえるという姿勢が要求されます。

また、英文法の理論は、これが唯一正しいというものがあるのではなく、その理論体系の優劣を競い合うものでもありません。英文法習得の意義を明確にしておかないと、例外が多すぎる理論や、分類のための分類となり、その理論を理解することが目的となってしまうといった事態に陥りかねません。

「のみ」という言い方をもっと見直すべきでしょう。本書でも、たとえば「使役動詞は(3+1)の4つのみ」という言い方をしていきます(☞第134話)が、まずは、「のみ」という枠組みで品詞の問題を考えましょう。